

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4471200503
法人名	社会福祉法人偕生会
事業所名	グループホームあさぢ偕生園
訪問調査日	平成20年 6月10日
評価確定日	平成20年 7月28日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおい

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4 4 7 1 2 0 0 5 0 3
法人名	社会福祉法人 偕生会
事業所名	グループホーム あさぢ偕生園
所在地	豊後大野市朝地町朝地889番地の2 (電 話) 0974-72-0177

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成20年 6月10日	評価確定日	平成20年 7月28日

【情報提供票より】(平成20年5月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年 3月28日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算 8.3人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	2 階建ての 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	6,990 円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり 1,000円		

(4) 利用者の概要(5月23日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.7 歳	最低 73 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	あさぢクリニック 児玉医院 アルファー歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- 1 豊かな自然環境に囲なれながらも、幹線道路沿いの駅や庁舎も近くにある町の中心に位置している。
- 2 グループホーム職員のアイディアで、ボランティアをするとポイントが貯まり、商品をプレゼントするマイルポイント制度を法人が作るなど、地域の人材を活かす工夫をしている。
- 3 市や町との連携がよくとれており、協働体制ができている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果を全職員で共有し、改善点については検討の上取り組みを行い、家族バス旅行の実施などに結びつけた。また、評価票はファイルして家族のだれも見られるように玄関に設置している。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の評価についても、事前に主任が職員の意見を取り入れた内容を園長がまとめて作成している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 地区会長、民生児童委員、老人クラブ会長、ボランティア会長、市介護保険課、朝地総合相談センター、家族、職員のメンバーで2ヶ月に1回開催し、メンバーから、防火活動で地域の消防や地域住民との協力の意見があり、検討していく予定である。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 玄関にご意見箱を設置している。また、家族参加のバス旅行終了時に意見交換を行い意見や要望を取り入れている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の小・中学校の運動会に参加したり、保育園へ利用者手作りの雑巾を持って行ったり、夏の「夕涼み会」へ近所の方に案内を出し25名ほどが参加したり、近隣の方が手作りお菓子やおかずを持って来てくれる。交通安全期間には職員が道路へ立つ等、積極的な取り組み、ボランティアにはポイントが貯まるマイルポイント制度を法人でつくる等独自の取り組みをしている。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から、笑顔、地域、環境を生かすを理念とし、今年度からは、気づきを追加した。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	年度初めに法人とあさち偕生園の取り組みを話し合っており、グループホーム全体会議やあさち施設での勉強会などで理念の共有をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小・中学校の運動会への参加、保育園へ利用者手作りの雑巾を持って行ったり、夏の「夕涼み会」へ近所の方に案内を出し25名ほどが参加したり、近隣の方が手作りお菓子やおかずを持って来てくれたり、交通安全期間には職員が道路へ立つ等、積極的な取り組み、ボランティアにはポイントが貯まるマイルポイント制度を法人でつくる等独自の取り組みをしている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果は全職員で共有し、改善点については検討の上取り組みを行い、家族バス旅行の実施などに結びつけた。また、評価票はファイルして家族だれもが見られるように玄関に設置している。今回の評価についても、事前に主任が職員の意見を取り入れた内容を園長がまとめて作成している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区会長、民生児童委員、老人クラブ会長、ボランティア会長、市介護保険課、朝地総合相談センター、家族、職員のメンバーで2ヶ月に1回開催し、メンバーから、防火活動で地域の消防や地域住民との協力の意見があり、検討していく予定である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の委託事業「いきいきスマイル教室」の実施や、朝地町保険福祉関係者で2ヶ月毎に情報交換会を開催し、その中から、市や社協の後援のもと、認知症の介護教室開催へ繋げるなど、市との連携、協力が十分にできている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月毎に法人の広報誌、今年度から年4回の担当者の手紙を添えたグループホームだよりの発行や、面会時に近況、金銭出納報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。また、家族参加のバス旅行終了時に意見交換を行い意見や要望を取り入れている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人全体の定期異動が年1回あり、グループホームからの意見は出していたものの、今年度は3名の職員が変わり、利用者が落ち着かないなどの影響が見られた。異動について、利用者全員と職員が参加して意見交換を行う「よりあい会」で報告や紹介をし、家族にも面会時などで説明している。	○	利用者への影響を考慮し、できる限り異動を最小限にとどめるよう、法人全体で検討していくことが望まれる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月毎に法人全体の研修、あさち偕生園で事例検討会を実施し、外部研修へは各職員に応じて希望も汲み取り参加している。また、新人職員向けに施設独自の研修計画(15項目)にもとづいて教育を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分県老人福祉施設協議会主催のグループホーム情報交換会や、同業者も加入している朝地町保険福祉関係者の情報交換会へ参加している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前には本人、家族と共に見学に来たり、職員が自宅を訪問するなどしている。また、併設のデイサービス利用者の場合は、自主事業であるナイト利用をし、なじみの関係作りをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、フキの皮むき、昔ながらのおやつ作り、野菜の育て方などを過去の経験を活かして教えてくれる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全利用者と全職員参加の「よりあい会」で利用者の希望や意見を交換している。また、日々の生活の中から気づく「私の思いの言葉」を記録している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、「よりあい会」などで、本人の思いを把握し、園長がつくった案をもとに、主任が担当職員や家族の意見を聞くなどして作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	年2回の見直しを行い、2ヶ月に1回2、3名の事例検討会で検討している。状態の変化時にはその都度対応している。	○	状態変化のある場合に限らず、1ヶ月に1回程度のモニタリングすることが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個人的な買い物、歯科受診、理美容、墓参りなど本人や家族の希望で柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により、かかりつけ医が決められている。必要に応じて往診や年1回健康診断を実施している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りをしない方針であり、全職員で共有し、入居時に本人、家族へ説明している。重度化はその都度医師、家族や職員と話し合いながら対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴や排泄票等の記録物は利用者の目に触れない場所へ保管するなどの配慮をしている。また、プライバシーについての内部研修を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限りこれまでの生活習慣を尊重し、夜眠れない人が歩くのを見守ったり、朝食時間を遅くするなどの対応をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は併設のデイサービスでまとめて作っているが、野菜の皮むきやきざみ、配膳や片付けなど手伝ってもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望やペースに合わせた支援をしながら、毎日入浴ができる対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の下ごしらえ、園芸、雑巾縫い、洗濯物たたみ、新聞たたみ、オルガンを弾くなど生活歴を活かした支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	墓参り、買い物、理美容利用など、個人の希望にそった対応はできているが、希望の無い人などは週1回屋上や散歩に出かける程度である。	○	短時間でも戸外へ出る機会をつくり、気分転換やストレス発散、五感刺激が得られる工夫を期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物2階にグループホームがあり、日中はエレベーターは自由に使え、鍵をかけないケアへ向けた取り組みをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月避難訓練を実施し、避難経路を習慣付けているが、地域の協力や備蓄がなされていない。	○	地域との協力体制作りや水や食料の備蓄が求められる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成(1600kcal)し、食事、水分量の記録をしている。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に面した廊下が囲む吹き抜けには、山帽子が植えてあり、ベランダには利用者とともに栽培している野菜のプランターがあり、明るく季節が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ての居室から住み慣れた地域の風景が望め、足踏みオルガンや利用者が好きな相撲のカレンダーを飾るなど、居心地の良い居室になっている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームあさぢ偕生園
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	豊後大野市朝地町朝地889-2
記入者名 (管理者)	安東 榮子
記入日	平成 20年 5 月 20 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
☐ 1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域とのふれあいとしてイベントに参加し出かけていく。生活の継続に心がけ生活暦の情報を家族等より聞き買い物の好きな方、お花が好きな方、何か仕事をしないと悪い方等支援している。	○ ボランティアの受け入れ(生活支援)を地域の方へ広めていきたい
☐ 2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	年度初めに法人及びあさひ偕生園としての取り組みを話し合っている。職員会議等に問題等発生した場合にも理念を共有している	○ 法人での夜間園内研修で理事長より説明がある
☐ 3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族等の面会時や介護教室、施設見学等で利用者の行事等や事業の目的等話している	○ 家族や地域と共に施設の目標に理解しあえる信頼関係作りをしていきたい
2. 地域との支えあい			
☐ 4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	介護教室、夕涼み会に案内を出し参加を頂いている。広報誌の配布。野菜やおやつ等頂いている	○ 広報誌の配布。徐々に少しずつボランティアの参加をお願いしていきたい
☐ 5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内でのイベントや保育園、小、中学校の運動会等に参加している。地域の理容、美容室を利用している	○ 地域のイベントの参加。保育園、小中学校とのふれあいは継続していきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護教室を年3回実施している。運営推進会議で各団体の情報の行事に積極的に参加している(交通安全週間の街頭指導)	○	地域で食事に困っている方へ配食サービスをしている
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を理事長に報告し、法人内の事業所にも波及している。評価終了後全職員で全ての項目を話し合い改善できる点から実施している	○	法人の第三者評価委員会に出席している
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の生活の様子、行事等を報告している。委員の中に利用者の知人が多く落ちついた生活の様子を評価され、職員の仕事への取り組みが高まっている	○	苦情相談も行っている。利用料支払方法で法人との調整の強化を行い書面で情報を確認するようにした
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の委託事業でいきいきスマイル教室を実施している。特定高齢者の栄養指導で配食を担当し評価をしていただいている。朝地町保健福祉関係者で2ヶ月に1回情報交換を実施している	○	防災について地域の消防団との調整をして頂こうと考えている
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者1名生活支援員より面会や利用料、小遣い等の支援をしていただいている	○	必要に応じ相談員、事業所の活用は考えている
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の言葉遣いや行動をキャッチし即、対応している。法人の身体拘束委員会に参加している	○	職員間との信頼関係、上司へ報告等早めに改善へ向ける

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
に				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族へ重要事項説明を行い不安な面、生活歴等の情報交換をしている。広報を渡し行事等説明している	○	利用者、家族との信頼関係作りに傾聴していきたい
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月寄り合い会を行い、園長、日勤職員全員で利用者の意見を聞く。行事や入浴、食事等意見が多い	○	利用者一人ひとりの要望をどう対応するか会議で話し合い、職員が共有して近づけていきたい
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	広報の配布。面会時に近況報告、金銭出納報告をしている。20年度より年4回グループホームだよりを発行予定。生活/健康状況を担当者より家族へ送付している	○	家族へ近況報告とホームだよりを今年度4月より始めた
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。19年11月に家族、利用者とのふれあい終了後意見交換を行う。来年も実施してほしい声が多かった	○	面会時要望等お聞きすることもある
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議・グループホーム会議・週1回の連絡会議を実施している。日よけ、ソファの位置、テラスの使い方等	○	会議は活発に意見が出されハード面やソフト面にも話し合われ改善に向けている
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	その都度現場より報告、相談に柔軟に対応している。年休等の勤務調整、4月は異動に伴い夜勤、日勤の調整を行った	○	職員数が限られているので勤務変更を柔軟に対応し現場重視としている
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	4月、3人の異動があり利用者に落ち着きがない行動が見られたが新人職員に受容や笑顔の大切さを説明をした	○	異動に関しては理事長より相談はある

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	夜間園内研修で隔月法人全体で研修、隔月はあさち偕生園で事例検討を実施している。今年度5月より新人研修を15項目に分けて行っている	○	認知症の検討として、事例検討時になぜこんな行動をするのか等話を出している
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	老人福祉施設協議会主催のグループホーム情報交換会に参加している。市主催の研修会や朝地町保健福祉関係者との情報交換会も実施している	○	ボランティア育成で地域の高齢者が安心できる仕組み作りを目指したい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	利用者、職員との卓球大会。職員互助会主催の年2～3回レクリエーション。法人主催の職員研修旅行	○	食事会やレクリエーションの実施を計画していきたい
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	理解できないことや、処遇に関することで相談に応じている。資格取得については、助成金や出張扱い等励めている	○	上司として傾聴力を高めたい
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	帰宅願望、家族のこと、健康についての相談は、ゆっくり聴く職員が増えコミュニケーション技術が向上してきたと感じる	○	利用者に内的抑圧の方がいて本人から本音を聞いてあげる努力をし本人が話せるようになればと考えている
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前の不安や、入所後の不安に電話で生活の様子を度々伝えている	○	情報の共有をしていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	デイサービス利用や自主事業、ショートステイ事業を説明しいつでも利用できることを伝える	○	相談業務やサービスの試行も進めていきたい
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービス利用者が入所を希望された場合自主事業のナイト利用を利用しながら顔見知りになりスムーズに入所したケースがある	○	入所申し込みの方へ情報を提供していく
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の中でおやつ作りや野菜の育て方等利用者が主体になる取り組みに努めている	○	おやつ作りは職員が教えていただく役割作りを進めていく
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	帰宅願望の方が家で酒を飲みたいと希望され家族にノーアルコールビールの購入を教え満足している	○	寄り合い会や本人の希望は家族にも伝え共に利用者を支援していきたい
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の夫がデイサービスを週2回利用し、その度に面会され夫婦の絆を深めている。長男夫婦も喜ばれ、利用者が生き生きとした姿に変わられたことにびっくりされている	○	家族からの要望等には常に近づける環境づくりをしたい
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会の必要性。近隣の方や同級生の面会もたまにある	○	家族の支援の必要性を話していきたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	行事、食事、レクリエーションの参加の呼びかけを利用者にもお願いしている	○	プライドや負けん気の方とのトラブルを早くキャッチし協力しあえる関係作りをしていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	広報の発送。家族より野菜、おやつを作って持ってきてくれる。今後ボランティアをお願いしていきたい	○	ボランティアに登録をお願いしたい
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅願望時の対応に「どのようにしたいのか」たずねている。寄りあい会で意見を聞いている	○	事例検討会での解決策は本人を理解していくことから始めている
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活の会話から理解していく。家族より話を聴く。食欲のない時好物を教えていただいている	○	生活暦は小さい頃のことや戦争を体験したこと、家族の事等を把握しておきたい
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	デイサービスの利用者と自らすすんで仲間に入っている方。リビングにいて常に見守られている安心感がある等	○	身体や精神の変化が激しく日中・夜間の記録なども大切にしておきたい
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	連絡会議やグループホーム会議、事例検討会で踏まえた介護計画を主に行っている	○	日常生活の変化や本人の要望を取り入れた介護計画にしたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	年2回見直しをしているが、変化の無い方が多い。食欲の低下等で様子観察し再度前の生活に戻る方が多い	○	寝たきりにならない介護計画を立てたい。食事排泄のプランや意欲の向上に力を入れていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会話や要望等に対する対応を記録している。身体状況については人物像に病気の位置等を記入している	○	プランによる介護支援の記録
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスの利用は利用者の希望に応じている。家族の対応等全職員が面識を持ち相談に対応している	○	本人の居場所作りにもデイサービスを利用したい
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民謡教室、アロマセラピー、草刈にボランティアの支援を頂いている。中学生が体験学習に見える	○	ボランティアの普及にマイルポイントで有償とし多くの方にパンフレットを渡している
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	朝地町保健福祉情報交換会に参加している	○	朝地町保健福祉情報交換会を継続したい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	あさち偕生園はケアマネが予防プラン等で関わりはある	○	居宅支援事業所より包括支援センターの介護予防プランや研修会等で協働している
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じ往診にも対応して頂いている。年1回健康診断についても実施している	○	薬等はバイタル表をファックスで送って対応していただいている。終末期の家族との話し合いに協力的である

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に精神的症状が出た場合家族と相談のうえ支援している	○	家族やかかりつけ医との話し合いを持って専門医との受診をしている
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	デイサービスの看護婦やかかりつけ医院の看護職員と気軽に薬や医者との関係を調整してもらっている	○	薬の関係はバイタル表で出していただいている。利用者との顔なじみの方が多い
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院になれば情報交換をしたい	○	日頃より必要な会議等には出席し連携を持ちたい
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	食欲がなくなった方がこれまで5人いました。医師から入院を希望するのかどうかと問われた。夜間家族が付き添えば施設で介護はできることを伝え1名施設で亡くなった。新人職員には共有していないがその都度全職員に相談して関わりたい	○	かかりつけ医と家族との話し合いで家族の希望に沿った支援をしたい
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	夜間体制が1人のため家族が付き添えば支援できた。デイサービスの看護婦、法人の看護婦の支援をしてもらっている	○	家族の考え方に沿ってグループホームで最後まで希望すれば家族の支援をお願いし最後まで介護していきたい
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事例はないが情報は提供したい	○	ADLの低下、寝たきりになり特養への住み替えなど考えられるので情報交換を大切にしていきたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	○	記録表は職員の記録しやすい位置に置きやすいので利用者の目に触れないところで管理する
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	○	寄り合い会は全員の参加で一人ひとりの意見が出るように支援していきたい
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○	利用者のペースを大切にしたい。行事に参加しない方には無理には進めない。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	○	入浴時の着替えの準備は本人と選ぶようにしたい。理容・美容院の利用は続けたい
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	○	献立の変更をし、ちらし寿司・煮付け・赤飯等誕生祝い等に出している
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○	おやつ作りをし、食べながら話が弾んでいる

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄記録を取り声がけ等で対応している。自分の部屋のトイレを希望する人もいる	○	行動を把握しトイレへ誘導する
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前中希望する人が多い。入浴嫌いな方は浴室の隣のトイレに誘いタイミングよく入浴している	○	夏季・冬季の入浴時間を話し合い変更していく
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼寝の習慣がある方、7時頃から寝る方もいる。東側の部屋はカーテンの使い方をこまめにしている	○	夜間や早朝に起きて廊下に出てくる方には時間や夜の様子を伝えると再度休む方が多い
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	何か仕事をしたい方に新聞たみや、ごぼうそぎ、ふきの筋取り等準備している。オルガンを弾いて歌う方もいる	○	仕事が負担にならないようにしている。役割を見つけていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	美容、理容室の利用、買い物、喫茶、軽食等に使っている	○	美容院の利用、イベントの参加等に出かけ自分から買い求める支援をしたい
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	墓参りや、金こん様参りにつき1回行っている。買い物等は買いたいものがあるときに計画している。散髪、美容院へも行く	○	散歩・買い物に付き添い外出する
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年1回家族利用者とのふれあいバスツアーを実施。家族が家へ昼間つれて帰っているケースもある	○	今年度も実施したい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家へ帰りたいとワーカー室で電話をかけている。賀状や暑中見舞いを出す	○	家族と電話で話したり手紙を書くことも考えていきたい
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室やリビング、廊下等で皆さんと一緒に話してる方が多い	○	家族に面会の必要を話していきたい
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の言動や行動でキャッチした時対応している。法人の身体拘束いんかいに参加している	○	車椅子の方は食事時間やレクリエーション時は椅子に移り、疲れないようにしている
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はエレベーターを自由に使用できるが夕食の6時ごろより朝8時までエレベーターに錠をかけ使用が出来ない	○	寄り合い会で夜間は暗く危険な為エレベーターは切ることを説明し同意を受けて切っている
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	2時間おきに所在確認。2名は30分毎に確認している	○	所在確認表は利用者の目に届かない位置に置く
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	廊下にソファを置いてあったが、歩行に手すりを使用するため除く	○	洗剤や包丁などは利用者が触れない位置にしまうようにしている
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	避難訓練を毎月1回実施。転倒防止に歩行時の付き添い、和室に上がるときの介助をしている	○	転倒防止・行方不明等は常に気をつけ、一人ひとりの日常生活の支援を行う

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	19年4月11日、日赤指導員より救急法について研修会を行う。酸素吸入器や吸引機の取り扱いの一部の職員は出来ない	○	定期的に実施したい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を毎月実施し避難出口の経路を習慣づけている	○	介護教室、運営推進会議、家族などに協力を呼びかけていきたい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	契約時や面会時に生活の様子などを話し、家族と共有し確認・同意を頂いている	○	一人ひとりの生活の様子、癖等を把握し職員全員が共有し事故を未然に防ぐ
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	看護師に連絡し、対応している。上司にも報告を行っている	○	体調の急変時の対応は全職員がチームで行動している。デイサービスの看護師の指示で動いている
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容の記録を一本化している。ケース記録に健康状態を分かりやすく記録している	○	服薬の内容を記録し一本化している
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝食に芋ご飯を取り入れている。おやつにふかし芋などを出している。午前中、散歩やレクリエーションを行っている。	○	排泄チェック表をつけている。便秘の方の把握をし、2、3日排泄のない場合は緩下剤を服用している
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食時後の歯磨き支援を行っている。口の中は定期的には見ていない	○	朝夕の実施から昼も実施している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲のなくなった方の対応で、摂取介助や好物を見つけ支援している	○	食事量が低下した方は食事、水分摂取量の記録をしている
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	風邪症状があれば部屋で過ごしてもらい共有場所には行かないようにしている。また、受診をし医師の指示や職員にも予防を心がける。感染症予防マニュアルを参考にしている。	○	グループホーム、デイサービス玄関、職員の出入り口に手指消毒液を置いて使用している。職員全員感染要望について研修している
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	納品は前日、または当日に受け入れている。調理器具等は洗浄機、乾燥機、室内滅菌消毒をしている	○	厨房内の清掃、食材の整理整頓は常に気を配っている。米・野菜は近くの生産者より納めてもらっている
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に季節のお花を活けているため近所の方よりお花を頂く。職員が早く来客に気づき声をかけている	○	駐車場から玄関が近いので来客がわかりやすく職員が出迎えることが多い
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダにはプランターに野菜や花が植えてありリビングからみえる。山ぼうしのきがどこからでも見え心が和むと利用者の声がある	○	日除けやカーテンをうまく使い雰囲気作りに配慮している
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ室を2箇所にし居場所を選ばれる	○	利用者間のトラブルを避けるため休憩室にテレビを置き過ぎやすいようにした

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビを居室で見たい方は家族が準備している。孫や家族の写真等を壁に貼っている	○	トイレが教室内にあり安心する方が多い。家族より好みの絵のカレンダー等をお願いしている
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上のよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓の開閉、換気を定時に実施している	○	居室は常に窓の開閉、換気扇の使用をしている。リビングは時間的に窓を開け、網戸をにしている
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は歩行を妨げないように物を置かない	○	歩行を安心して行う為に手すりの活用、付き添いなどで行っている
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレは室内に有り夜間安心して使用している。	○	室内で排泄の失敗をしても下着などバケツに入れる。家での生活をそのまま続けている
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダ、屋上での外気浴、気分転換に誘っている。ベランダに季節の花や野菜を植え水やり等したり会話も広がっている	○	ベランダのプランターで野菜・花に水遣りを行っている。ジョウロやバケツに水を入れて誰でもすぐやれるようにしている

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☐	☐ ①ほぼ全ての利用者の ☐ ②利用者の2/3くらいの ☐ ③利用者の1/3くらいの ☐ ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☐	☐ ①毎日ある ☐ ②数日に1回程度ある ☐ ③たまにある ☐ ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☐	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2/3くらいが ☐ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	☐	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2/3くらいが ☐ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☐	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2/3くらいが ☐ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☐	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2/3くらいが ☐ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☐	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2/3くらいが ☐ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	☐	☐ ①ほぼ全ての家族と ☐ ②家族の2/3くらいと ☐ ③家族の1/3くらいと ☐ ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①笑顔で優しく関わり利用者の体調・行動の変化に早く気づくことに力を入れている。 ②利用者の要望に受容し、傾聴し常に心の中に答えられるよう努めている。
 ③地域の方とのふれあいを大切にし、ボランティアの受け入れに力を入れたい。